

特集

〈事例〉

地道で多様な取り組みの継続で 2度目の優秀賞を受賞

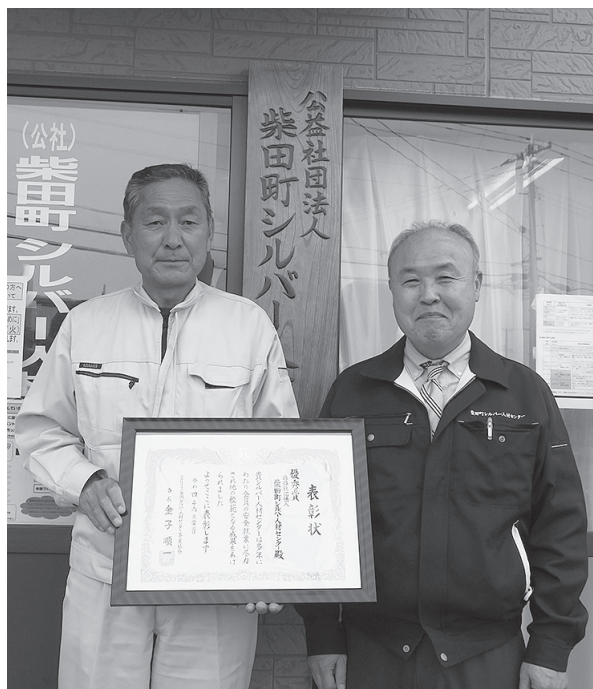
公益社団法人
柴田町シルバー人材センター

(宮城県)

柴田町SCは、令和4年度の「安全就業優秀シルバー人材センター」として全シ協から表彰された。平成29年度に続いて2度目の受賞となる。令和3年度までの過去5年間の傷害事故はゼロ、物損事故は2～6件で推移。月2回の安全パトロール、危険予知（KY）活動、健康状況などを尋ねる会員との面談など、さまざまな取り組みを展開し、安全に対する注意喚起を地道に継続している。

柴田町SCは、令和4年度の「安全就業優秀シルバー人材センター」として全シ協から表彰された。これは、平成29年度に続いて2度目の優秀賞受賞となり、全シ協の安全表彰歴の中でも数少ない事例である。

安全就業推進員も務める業務担当職員の岩橋清喜さんは、今回の受賞について「会員が高い意識を持って安全就業に努めた結果です」と謙虚に受け止めている。安彦秀昭常務理事兼事務局長は、「安全管理委員会を毎月開き、全国や宮城県内のセンターの取り組みに学んだり、安全パトロールを毎月2回実施したりと、地道に取り組みを続けてきたことが受賞につながっ



柴田町SCは、平成29年度に続いて2度目の「安全就業優秀シルバー人材センター」として、令和4年度に全シ協から表彰された。写真左から賞状を手にする安全就業推進員で業務担当職員の岩橋清喜さん、安彦秀昭常務理事兼事務局長

たと思います」と述べた。

平成29年度～令和3年度の5年

間に発生した傷害事故はゼロ。物損事故は1年に2～6件で、主に

草刈り作業時の飛び石と配線の切断などである。

なお、令和4年度は傷害事故が2件、物損事故が1件であった。

センター設立と同時に 安全管理委員会を設置

安全就業対策は、平成14年度のセンター設立と同時に設置した安全管理委員会が中心になり、取り組みを行っている。

委員は、担当理事2人、職域班長2人（剪定班・草刈り班）、会員1人（安全管理に精通した元理事）、安全就業推進員1人、事務局長の

計7人で構成している。

毎月委員会を開催して、全シ協や宮城県SC連合会から提供される情報や他センターの安全適正就業対策を参考にしており、関係する職域班に情報を伝えている。

会議の日は、安全パトロールを行う。また、事故発生時は、現場検証の結果や今後の課題を委員会で検討して、結果を定時総会や講習会、就業前後の活動内で周知し、

再発防止に努めている。

具体的な取り組み

●月2回の安全パトロール

安全パトロールは、月1回の安全管理委員会開催日に、計画・実施している。対象は剪定、草刈り、駐輪場管理、施設管理の就業現場。当日の朝、安全就業推進員の岩橋さんが場所を決める。

また、月1回の「安全意識高揚

の日」と名付けた日の安全パトロールを抜き打ちで実施。安全就業推進員と安全管理委員1人（各月輪番）が組んで行っている。

安全パトロールは、「安全点検表」の項目（服装・保護具、整理・整頓、作業規律など）ごとに確認し、指導、改善事項があれば行い、記録する。ここ数年は、しっかりと守られていることがほとんどで、指導するということより、「引き続き気を付けてください」と声を掛けることが多いそうだ。

●危険予知（KY）活動

剪定と草刈りの現場では、健康状態、服装、危険予知について班長を中心に毎回確認を行っている。具体的には、危険要因を確認するための「危険予知（KY）活動日報」を班長に渡し、班長がその項目を就業前に確認する。日報は、参加者、健康状態、服装点検、就業ごとの危険予知項目をA4用紙1枚にまとめたもの。確認する項目や体裁は、現場の声を聞きなが



安全管理委員会では毎月2回、安全パトロールを実施



健康状態の確認と体を準備するために、毎朝就業出発前にラジオ体操と転倒防止運動を行っている



センター事務所入り口付近にある掲示板と窓には、安全情報や気象状況などを掲示。会員に注意を呼び掛けている

ら都度改善を図っている。

●就業前の体操

剪定や草刈りの就業会員は、朝センターに集合してから現場に向かう。健康状態の確認と体を準備するために、ラジオ体操と転倒防止体操を行っている。

●熱さ指数（WBGT）、気温、天候周知

熱中症対策として、毎朝気象情報を確認し、事務所前の掲示板と口頭で会員に周知している。

令和元年10月の台風19号による記録的な大雨で、センター事務所1階が浸水した経験からも、気象情報は必ず確認するようにしている。気温上昇の予報などで危険を感じた日は、発注者の理解を得て就業を中止することもある。

●講習会、職種班会議

交通安全、作業手順、保護具などの確認を行う講習会や職種ごとの班会議を定期的に行い、安全意識の向上を図っている。

令和4年度は、7月20日に公民



令和4年11月、剪定班・草刈り班に対して、安全作業の確認、事故事例から安全対策を考える講習会を行った

館で「安全運転講習会」を実施し、会員22人が参加。自動車教習所の教官だった会員が講師を担当し、高齢者の安全運転について講義をした。

11月14日は、剪定班と草刈り班を対象に、安全作業の確認や事故事例などから安全対策を考える講習会を実施。25人が参加した。

道具類の点検は、毎朝、就業前に行っている。草刈り機は各自のものを使用するが、替え刃はセン

ターで管理し、随時交換している。

●事故免責額の自己負担

物損事故の保険免責額1万円については、事故抑制を図ることを目的に全額会員負担としている。

●安全就業推進標語の募集

安全意識の高揚を目的に、2年に1回、全会員から安全就業推進標語を募集。安全管理委員会が委員長賞1点、佳作2点を選考。結果は会報に掲載するほか、定時総会時に表彰し、安全意識の啓発につなげている。

令和3・4年度は85点の応募作品の中から、小野立子さんの「守りたい 自分の体と 家族の笑顔」が委員長賞に選ばれた。

●安全祈願

安全就業、無事故を祈願して毎年1月の仕事始めには、神主に来てもらい、安全管理正副委員長、理事長、事務局職員が参加して、事務所安全祈願を行う。

●その他

事務所前の掲示板を活用し、事

故情報、季節ごとの注意、宮城県S C連合会の安全ニュースなどの情報を発信。見ている会員が多いという。

また、事務所の入り口には「安全就業の心得ーみんなで守ろう10ヶ条」を掲示して、意識付けを図っている。

就業は必ず2人以上で行い、「安全、健康状態の確認のために、互いに声を掛け合おう」と、会員に呼び掛けている。

コロナ禍でマスクなどが入手しづらかった時期には、センターが手配して全会員にマスクを各10枚郵送。冬は寒さ対策として、使い捨てカイロを配布している。

全会員と面談し、健康状況と就業意向を聞く

毎年1月、健康状況と就業希望の変更、就業についての現状確認などを目的に、全会員を対象に対面による面談を行っている。

12月末に健康状況の調査票を全

会員に送付して、回答(自己申告)を面談時に持参してもらう。この際、最近腰が痛い、年齢を感じるようになったなどと話す会員もいて、例えば、屋外での就業は体力的に厳しくなった場合、屋内での就業に変わることを事務局から提案するタイミングにもなっている。

会員にとっても、年一回、自分の健康状態などと向き合う機会になっている。面談は、業務担当の職員2人で対応。3日間を設定し、約3000人、会員番号順に時間帯を伝えて事務所に来てもらう。

「1、2分で終わる場合もあれば、長くなることもあります。3日間で1人当たり約150人と話すので大変ですが、体調や就業などについて普段では言えないようなことを話してくれる会員もいるので、聞き役に徹しています」と担当する岩橋さん。

毎 year 顔を見て会話をすることで、その後に体調の変化があれば気付

きやすいというメリットもあり、面談の機会を大切にしている。

年齢や体力に適さない仕事は受注しない

柴田町は、低山に囲まれた盆地で、古くから東北有数の桜の名所として知られている。丘陵地は斜面が多いため、新規の依頼は必ず現場を見てから受注するかどうかを決める。基本的には、作業別安全・適正就業基準に照らして判断するが、基準を満たしていても会員と年齢や体力によつては依頼を断ることもある。60代の会員が多かった頃は受注できたことでも、会員の平均年齢は73・1歳(令和3年度)となり、以前のように行えないという。

屋外作業ができる会員は70代が大半で、年を重ねても体力のある人もいるものの、年齢や体力に適さないと判断した現場は断るか、発注者に相談して就業人数を増やして対応している。

会員と仕事のマッチングに努める

岩橋さんは「これまで通り事故ゼロを目指して、毎日、注意喚起を積み重ねていきます」とした上で、朝のあいさつ、送り出し、帰って来た時などのタイミングで会員に安全を呼び掛けていくという。「同じ言葉では聞く方も慣れてしまうので、ニュースや季節の話題を取り入れ、最後に『今日も安全に気を付けて』と話すなど、工夫を凝らしていきたい」と言う。

安彦事務局長は、年金受給開始年齢や企業の高齢者雇用状況などがセンター設立時と大きく変わってきていることに言及。その上で、「現代のシニアは、昔より若々しいと思いますが、70歳を超えて入会する人が増える中、それから剪定を習って頑張ろう、という人はほとんどいないのが現状です。そうした変化も踏まえ、時代に合わせたセンター運営が必要になって

いると感じます。会員の生きがいづくりと地域貢献を目的とし、会員の希望や状況と仕事をマッチングする就業開拓に、さらに努めていきたい」と、今後の安全確保に向けた抱負を語った。(増山美智子)

事業運営状況 (平成29年度～令和3年度)

| 年度 | 会員数 | | | 相入率 | 就業実人員 (延人員) | 就業率 | 受注件数 | 契約金額 | 公民比 |
|------|-----|----|-----|-----|-----------------|------|-------|---------|-----------|
| | 男 | 女 | 計 | | | | | | |
| 平成29 | 211 | 83 | 294 | 2.2 | 257 (28,759) | 87.4 | 1,455 | 153,758 | 42.6/57.4 |
| 30 | 203 | 81 | 284 | 2.1 | 271 (28,443) | 95.4 | 1,450 | 150,195 | 42.3/57.7 |
| 令和元 | 196 | 80 | 276 | 2.0 | 256 (27,431) | 92.8 | 1,486 | 148,972 | 43.5/56.5 |
| 2 | 191 | 85 | 276 | 2.0 | 230 (24,046) | 83.3 | 1,479 | 137,975 | 43.7/56.3 |
| 3 | 188 | 83 | 271 | 2.0 | 229 (26,256) | 84.5 | 1,522 | 136,409 | 44.8/55.2 |

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む